流山市在宅医療介護連携推進事業実施計画　令和６～８年度（概要版）　中期目標ごとのまとめ

位置づけ	高齢者支援計画　R6-8	
対象	介護保険：要介護・要支援認定者、総合事業対象者、障害者	
理念	医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で、安心・安全に自分らしく生活が出来る。希望すれば、最期を自宅で迎えることができる	
長期目標	在宅療養者を人生の最期まで支える２４時間３６５日緊急対応可能な医療と介護の連携システムの構築を図る	
中期目標	①市民啓発	市民が在宅療養や人生会議（ACP）について知ることができる
	②人生会議（ACP）推進	医療・介護の関係者が人生会議（ACP）に関する意思決定支援を実践できる
	③情報共有	医療・介護の関係者間でスムーズに情報共有できる
	④多職種連携	病院・在宅・施設・消防の関係者間で連携を深めることができる

中期目標	４つの場面	取組	期待値
①市民啓発 ②人生会議（ACP）推進	日常 急変時 看取り 入退院	市民公開講座や出前講座、おうち療養情報紙を通し、在宅療養（急変時や看取り等を含む）や人生会議について普及啓発を行う	①在宅療養（急変時や看取り等を含む）や人生会議について知っている市民が増える ②医療・介護の関係者が、本人・家族に対し人生会議を実践するための知識を得ることができる
		幅広い世代の市民に対し、ホームページやオンデマンド配信などを活用し、人生会議の周知を行う	①幅広い世代の市民が人生会議に関する情報を得ることができる ②医療・介護の関係者が人生会議に関する情報を活用し、本人・家族が人生会議を知るきっかけになることができる
②人生会議（ACP）推進	急変時	本人・家族・在宅の関係者間で急変時に関する取り決めを推進する	本人・家族・在宅の関係者間で急変時に関する取り決めがなされ、共有できる（急変時に救急要請するのか在宅医療関係者に連絡するのか、急変時の連絡順位、対応など）
	看取り	本人・家族が今後の看取りの経過や支援方法などについて共有できるように、医療・介護関係者向けに人生会議の実践に向け対応力向上のための研修会や事例検討の機会を設ける	医療・介護関係者が本人・家族に対し、今後の看取りの経過や支援方針などを踏まえた人生会議が実践できる
③情報共有	日常 看取り 入退院	多職種間での情報共有を円滑にできるよう、カナミックなど情報共有システムの活用を推進する	情報共有システムが有効活用され、情報共有がなされる
	急変時	救急情報カードを定期的に更新し、定位置への保管を推進する	市民に救急情報カードが広く普及する
	看取り 入退院	在宅療養支援診療所等の実態調査の実施、パンフレットを作成し、連携促進に役立てる	病院関係者、居宅介護支援専門員などが在宅療養支援診療所の情報を得ることができ、在宅移行につなげることができる
	入退院	流山版千葉県地域生活連携シートや情報共有システムなどの連携ツールの活用を促進する	流山版千葉県地域成生活連携シートや情報共有システム等の連携ツールを活用し、入退院の情報が病院・在宅関係者で共有できる
④多職種連携	日常・急変時・看取り入退院	病院・在宅・施設・消防の関係者が互いの専門性や支援の視点・認識などの職域理解を推進する	病院・在宅・施設・消防の関係者間で互いの専門性や支援の視点・認識など、職域を相互理解し、連携ができる
	日常 入退院	つむぐ会において病院関係者や新規開設した事業所などの新規参加者が増え、さらに参加者が拡大するなど活性化を図る	つむぐ会の新規参加者及び参加者数が増加する
	日常 入退院	在宅関係者が対応に苦慮する困難ケースにおいて、介護支援課が関係者間の調整やつなぎ役など在宅医療介護連携の相談窓口の役割を担うことへの周知を推進する	困難ケースを支援する在宅関係者の不安や思いを受け止め、対応方法などを協働し、支援を伴走することができる
	日常 入退院	困難ケースの支援方法について、多職種で事例検討をする機会を設ける	困難ケースの支援について、多職種で協働し、対応するためのスキルを得ることができる
	看取り	在宅療養・看取り推進のための症例検討会や高齢者住まい看取りケア研修会（VR体験）などを開催し看取りに関する理解を深める機会を設ける	多職種の専門性を知り、看取り支援について理解を深め、不安軽減につながる
	入退院	病院・在宅・施設・消防の関係者間の連携や、体制構築に向けて考える機会を設ける	病院・在宅・施設・消防の関係者間で互いの専門性や支援の視点・認識などの職域を相互理解し、連携ができる